838
297
116

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原

北留　本國尾張　攸　梅鉢　日丸

正明　比留筑後守　住尾州

正元　比留與十郎　生國尾張　仕織田信長大正五年己卯病歿

正種　比留與兵衛　生尾州

正信　比留後島田將監

女子　早川大膳　妻

女子

根岸信輔氏寄贈

昭和八・八・一〇・寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正吉　比留友若　與左衛門
生國尾張
屬織田内府信雄天正十八年庚寅信雄沒落後浪人能得造鷹術
文祿二年甲午於城州伏見而拜
大神君乃為御鷹役預御鷹其後肥前州名古屋供奉
慶長二年丁酉二月二日於江州受知郡吉田賜二百六十石餘在江州勤御鷹役
同五年庚子關原役能不失食邑同年十一五加秩江州高島郡太田邑
下吉賀邑加茂邑内百石凡賜三百六十八石餘　御寿印太古西屋供奉
元和元年乙卯六十九於京都而歿

女子　御手鷹役　真野長三郎室則妻

正永　比留長次郎　長兵衛
母真野孫三郎室政女

元和元年乙卯賜父正吉遺領三百六十八石内百八十四石跡百八十石分知
弟右衛門七在江州如父御手鷹匠戶田五助土佩清水權之助組時
寛文七年丁未　死

女子　母同　長崎司　柘植平右衛門正時妻

女子　母同

女子　母同　比留　清戒　妻

信繼　次　比留右衛門七
母同
元和元年乙卯賜父正吉遺領内百八十石在江州為御手鷹役所部所左衛門

寛文五年乙巳　死

正房　比留右衛門七　勘房門

母

寛文五年乙巳十二月一日踏目有八十名為御傷匠住京都後出口戸大久保喫
小屋預之
元禄八年乙亥十月九為中野御大小屋預同十年丁丑八二御書物司
後出普請
宇保七年壬寅五月一卒年　妻　器千駄谷寂光寺
于乾光院殿田空理曉屋

妻

宇保十三年戊申十一五元
于玉梅院殿淨安理心大姉

正武　比留長三郎　勘房門

母

妻中島七左門

宝永六年己丑四六部屋住為大御番十屋山城守組　妻　宝暦十年庚辰七九元
于智勝院慈芳理観大姉
宇保七年壬子父正房死而高僧故不願踏目
同十五年庚戌六月廿三為富士見御宝蔵番頭
後為戸川内蔵助支配延享三年寅七月二十二元年　妻　寂光寺
号信源院殿道右理本居士

正茂　比留長兵衛　為同姓長右衛門正達
母同　養子

正嘉　比留七之助　所左門

母中島七左門　女
妻多賀九郎左門
妻野中

女　安永九年庚子九月十三元
于実窓院智月理明大姉
女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正久　多賀金十郎
母同

明和六年正月生江戸仍丑年称母方氏
寛政　年　馬河野喜左衛門　舞養子
離別実実方

比留大藏

正幸　實　次男　伊丹午之助
妻母家女房
妻養父正方女

天明三年辰卯生於四谷
享和二年壬戌三月跡目七百俵於菊間而御老中所列坐
為小普請但仙石阿無番十郎同四年甲子二十一大夫所番内藤甲斐父守住

女子　母家女志津
養子正幸　妻

女子　母同

正達　比留長右衛門

母

寛文七年丁未十二十晦日百八十六石船門ゟ之間老中傳之為御鷹匠[illegible]

組天和二年戌出戸

元祿十三年庚辰八廿四日[illegible]年[illegible]向櫻本町光明山智願寺

于隨本院心耀淨可居士

正茂　比留與左衛門　長兵衛

實同姓助左衛門正房二男

實母

妻三橋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

元祿十三年庚辰十二九 踊目百八十六俵 於旬間御老中列坐阿部豐後守
傳之為小普請組 同部母後守組 同十四年己巳六十五為小十人組 屬三浦
五郎左衛門組改長兵衛 享保七年壬寅正十五為同組頭
同廿年乙卯三八以病辭為小普請組
寛保元年辛酉十十六死年 葬知恩寺
号真忠院殿常蒼光念淨觸居士

女子 母

宝永六年己丑十八夭 葬知恩寺
号出閑童女

正記

比留與十郎
母渋川助左衛門春海女
妻 真方小平次正氏女 寛延二年己巳六十四死 葬同寺
号夏光院明譽珠照大姉
再妻渋川孫十郎長美女

正德四年甲午生於江戸
享保十六年辛亥十二廿五 部屋住為大御番 渋川下總守組 賜二百俵
延享元年甲子五十三為元方御小納戸 寛延三年庚午八十八為同組頭
宝暦五年乙亥四廿為御膳司 同九年己卯閏七月為兎御納戸頭 同十二年壬午
布衣 同十年庚辰移御茶

某 嗣

子 母 同

子保三年戊戌九十五夭 葬同寺
号幻滅童子

享保九年甲辰正十八夭 葬同寺
号春華童女

某
母真方中平次女

延享五年歳五廿七夭寧岡寺
于寶樹院皆悉照見童女

女子
母同

寛延三年庚午五廿四夭英岡寺
于祇清蓮香童女

正保
比留長成
實中島七郎
實母
二男

妻養父正訛女
再妻 [illegible] 田村傳右衛門 女

女子
母同
實同姓所左衛門正嘉女

[illegible]川幸次郎兄長壽 錫五郎金次郎女子母

比留又三郎
實岡野孫十郎
實母
二男

妻養父正保女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子　養子又三郎　妻
母田村傳右衛門　女

女子
母同

女子
母同

女子
母同

正

比留芳五郎　與十郎

實

文化四年丁卯九三日三百俵於菊間御老中列坐
為石川右近將監主祀同十一年甲戌十二廿五為大御番人番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

藤原

比留

某

比留

正

比留清藏　清左門

大猷公御手鷹匠加藤伊織組賜現米五十石五人扶持

寛文七年丁未正十六死葬東右久年山蓮秀寺

号理教院常泉日住屋

某

比留

寛文九年百十二十三死葬蓮秀寺

号法林院昌山

比留三左門

衛庭

正重　母　比留弥右衛門　清左衛門

元祿四年辛卯十二四九　奈岡寺
于法性院妙泉日埋

寛文七年丁未七五　號目現年五十四石五人扶持　為加藤伊織組御手賀道
天和二年戌三廿一　為小十人組　須田市兵衛組
元祿三年庚午四四　死葬蓮秀寺号泉住院法玄日義

正只　母　比留万太郎　清左衛門

元祿三年庚午八　方跡目現年五十石五人扶持　於菊間御老中御列座大久保
加賀守傳々為小普請　堀田河内守組　同七年甲戌壬五九　又小十人組仙本七兵組
宇保二年丁酉九　相為同組頭　賜合二百俵
同九年甲辰十一十五　二九附　同十一年丙午正廿八　替宛　審組頭
寛保三年癸亥十二十八　告老辞　賜金二枚　為小普請

宣暦五年乙亥十廿九死年
于観淨院清運日行

葬智蓮多寺

二 女子
一 某

元祿四年丁未五廿一夭
于夏目妙祿
貞享元年甲子九十九夭
于[illegible]

正信 妻

此留七左衛

始留之助

妻吉良三次郎

如大明元年丁丑十一月死
于智月院殿妙昌同大姉

寛保二年壬戌十二三部屋住人大御番賜二百俵
明和五年戊子八月死

女子 [illegible]

于保二年丁酉二廿七夭
于智見院平意

女子 [illegible]

于保十四年乙酉十一月五死
于寛智院妙徳日證

正

比留與兵衛 [illegible]

清水殿被遣大番賜五石吉
寛政二年庚戌十二十六死葬蓮秀寺
于遥見院寒月居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正

比留吉太郎

母

壽吉良二次郎

天明七年丁未五廿七元
于真山院妙春日得大姉

女

天明元年辛丑十一月四元
于智月院照妙照日田大姉

女子

宝暦十三年癸未二十六夭
于妙春

正純

比留正太郎

母

源氏

比留間　本國伊豆　紋九曜

比留間雅樂助正也九世源左衛門正義三男

正景　比留間　藤八郎

住伊賀州

去正十年三年六月

大神君伊賀路御通時一揆起塞道路嶮岨多御家士輩不事内而殆令

難渋追拂一揆而不事内之路惑通行然正景伊賀國諸士追々馳來令

御道尽勤忠或不慮起一揆等追拂之於爰御通路無恙出尾州鳴海

於爰御暇所在所

正久　比留間　助左衛門

生國伊賀

元和二年丙辰出尾州以父正景之勤功為御先手近藤石見守組同心

賜三十俵二人扶持能得鉄炮之術慶安三年[illegible]為寛進物覆番
同四年[illegible]卯三月六為寛 此番手居太郎方右門組下番後号改
此番手居番同心 万治二年[illegible]三十陪居
寛文三年[illegible]八三死年七十七

正長 比留間 助作 助大夫 助右門
母

万治三年[illegible]三十家督三十俵二口為大久保平左門組同心
貞[illegible]四年[illegible]十一三致仕 寛文三年[illegible]

女子二人

正恒 比留間 助義 助左門
母

貞[illegible]四年[illegible]十一三家督三十俵二人扶持為本多屋右門組同心
元禄六年[illegible]三月為寛 此裏 此門番 榊原[illegible]左門組同心
宝永七年[illegible]七四死

某 比留間 喜三郎
母同

某

女子

正房 比留間 藤八郎
母

宝永七年[illegible]三十[illegible]三十俵二口為[illegible]
[illegible]十年[illegible]正十五致仕 同母[illegible]年[illegible]四十三死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
女子
某　比留間傳之助

正栄　比留間助左衛門
母

千保十年乙巳正十五家督三十俵二人扶持為柳原隼之助組同心
寛保元年千百五十五先病辭水野壱州守以書付傳之為小普請
内藤越前守組延享元年丁未三廿七為同組御役金両五手傳
宝暦二年辛申六十一為同組世話役旨酒井左衛門尉傳之
同三年癸酉六十二御留守居組小普請惣為小普請組御役所組由是
同年七十一為金田主殿組世話役同十年庚辰五十一為表火之番
明和二年乙酉六十五為　御臺様御廣敷添番同九年壬申十廿八

為御廣敷添番旨松平周防守傳之　同九年壬辰四十何病辭為
同廿三百死

正興　比留間善五郎　助左衛門
母

明和九年壬辰四十家督三十俵二口直如文御廣敷添番旨於此之間而
御先中列坐松平左京大夫傳之　御足並合百俵
安永七年戊戌四六為御勘定旨松倉佐渡守傳之
寛政十二年庚申三十四為御代官　文化二年乙丑四十死

正定 比留間兵三郎

實 實母

孝養父 正無子

實政十年四月馬賀養子太田備中守傳之 同十二年庚申九廿五

始 御目見文化二年之五七三諸目三十住宮於菊間御光中御判世

女子 母

養子 正定妻

藤原

比企 本國武藏

秀郷 鎮守府將軍 武藏守

千常 鎮守府將軍 左衛門尉

二男 公脩 鎮守府將軍 内舍人

文行 從五位下左衛門尉

公光 相模守 從五位下

公清 佐藤左衛門尉

千清 佐藤左衛門

公俊 五十尉

能員 佐藤弥八郎

公員 比企太郎

自野州移武州比企郡 于比企氏領比企西高郷之三箇所地

或曰比企掃部先造宗頼朝之在豆州時朝夕進之 其男 藤四郎能員之

能員　比企藤四郎　新判官
事鎌倉頼家卿産近侍
建仁三年九月比企時政寺併事誅戮了

朝宗　比企藤内
妻　御豊所召位局号越後局
女子　島津太久母

時員　比企弥四郎　與一兵衛
女子　小笠原十郎左衛門　親重妻
女子　中山五郎　為重　妻
女子　糟屋藤太兵衛有季子妻
有久　糟屋太郎府　承久礼京方
久季子　糟屋四郎

貞成　比企次郎
為同姓囚顕子

圓顕　伯耆法印　住東寺
兄時員死其男　貞成幼養之為猶子
女子　頼家卿　妾　号君使局一藤君母

貞成　比企次郎
實同姓與一兵衛時員子
囚顕養貞成為子後出京　順徳院北面

貞長　比企小太郎
在京後下向于武州

満長　比企右馬允
篠城於武州比企郎中村居住焉

守長　比企右衛門位
住武州中村城

之長　比企四郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

天正十一年至高屬上田上野介政廣同十八年於寶山田原乱後聖居
武州金郡
元和二年寄三十六年五十九年元光

貞重　比企　伯耆門　此子種在伊達家

能久　比企　藤四郎　治秀門
母　高麗　武前守女
天正十年生於武州金郡
同廿年寄父同聖居　慶長九年寄妹於伊拜
大神君　治屬于
台德公燒火間番　賜現米四十石　元和二年寄爲青山大藏丞　組寛永七年記于
爲十人組　同九年寄賜　遺物番爲御花畑御番　小判金五十兩
寛永十年至百加二百石　凡賜四百石
同十九年至十八年死　年六十五

重貞　比企　藤十郎　治兵治　藤秀門
母
生國武州
寛永元年甲子子任爲御花畑御番　屬永井信乃守組　賜百石十俸
同九年寄賜　御遺物金五十兩　同年爲大御番　同十年至百五加二百石
同十九年寄賜四百石　寛永十一年至十六年死

女子　井戸　忠兵治　雷仙壽
女子

久貞　比企　藤十郎　次秀門
母
生於伊

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

藤原
比企　本國加賀

比企長彦門

嚴有云仰勘定賜百五十俵元祿七年甲戌六二為仰代官
同八年乙亥十二月三野州分生 領地三千石 同九年丙子四七 領地三千八百
五十三石

某　比企小五郎　權彦門

母

宝永六年己丑四六自部屋住為仰勘定賜百五十俵 後辭為小普請
大島阿前守殿元文五年庚申死云

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子

某　比企善十郎

母

文文二年閏八二路目百五十俵為小要請駒根[illegible]後[illegible]但
川口能[illegible]子[illegible]時　明和三年丙戌　九十九遠島

某　比企　栄成

妻　　断絶

明和三年戊　十七[illegible]　[illegible]追[illegible]年十六

源氏　比企　本國相模　鈹丸二星

昌綱　渡邊喜左衛門　比企喜左衛門

生國相模　綱秀　以母方比企氏為君子

生國相模

初勝　比企佐左衛門　喜左衛門

母

寛永十年至酉生於相州
寛文元年[illegible]新規　神田御殿[illegible]為御勘定賜俸百俵後
加五人扶持延宝八年[illegible]　御[illegible]丸[illegible]為御勘定賜百五十俵[illegible]
文祿年[illegible]病[illegible]為三[illegible]　[illegible]宝永五年[illegible]子　[illegible]年七十六

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

晴正　比企　伊賀　始小五郎　権七郎

母

元祿八年乙亥七月五始　同年十二月一日本位御勘定
元祿年中代位為御勘定賜百俵宝永五年戊子五月六日踏目百五十俵呂
移告病辞　為小要請　杉本和泉守組
宝保二年丁酉　死年

晴、　比企市十郎

母

宝保二年丁酉六月七日踏目百五十俵呂　於菊間御茶中列座井上河内守使
為小要請　杉本和泉守組

晴　比企

母

晴　比企

源氏

平井　本國近江　敍源氏事

平井加賀守

某　属仏之本家

貞重　平井四郎左衛門　生國近江

政重　平井久左衛門

慶長廿年乙卯四月　寛永廿年癸酉四十二月　寺

台徳之御宮賜新知千石属水野隼人組為所書院番大切役供奉

寛永十年癸酉加往二百石凡賜千二百石

同十四年丁丑仍病絳為秋元但馬守組並知二百石上納

同廿年甲申正十三月年　若少浅草刻班正念寺

于心宗淨安禪道門

某　平井宗十郎　久

某　平井　久

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

長重　平井四郎右衛門

母

寛永廿一年丁申父死長重未拜親故賜半知五百石

慶安元年戊子八　大御書院番水野下總守組

同四年丁卯訓替于御書院番他組

自寅二年至七二仍病辭　為十番請組酒井能登守組

元祿五年壬申六月九死年　葬正念寺

于淨光院殿　諱養清安居士

酒井又右衛門　毒

女子　母

常義　平井吉右衛門

実　新御書院番酒井又右衛門　男　嫡子

実母平井久右衛門女

寛文七年丁未十一月以嫡之續為養子

延宝元年癸丑八十二始　御目見

同六年戊午三月九　部屋住大御小性組大草主膳正組　賜三百俵

元祿五年壬申十二月二　誦目五百石

宝永二年乙酉二月三　仍病辭　為十番請組　御回殿前ヶ下　十前伊豆守組

正德六年丙申四十三死年　葬正念寺

于安性院殿　諱養拙翁居士

常明　平井久右衛門

母

于保元年丙申八月九　誦目五百石　旅蜀間而御老中御列坐以世大和守

傳之為十番請　松前伊豆守組　同年十月二　継目御禮　銀馬代

同四年乙亥八二為酒井大学子配

同七年壬寅四十九死年　葬小石川光岳寺

于成覚院殿心巻達山洞翁居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

女子 母同

少老 閑根孫左門良長妻

常豊 平井久次郎 四郎左門

實

享保五年庚子十一九以甥之續為養子
同七年壬寅六廿九訴自五百石於前同而少老中御列坐少野
和泉守傳之為小普請組酒井大学子配同年九三替于無津
能登守之配
同八年癸卯二九継目御禮御太刀銀馬代
同九年丁巳九十六割入千能勢出雲守之配同年十九為
御書院番安藤伊勢守組同九年二丸付
同十五年庚戌歳才十七信濃守為小普請組福島左衛
之配

寛延二年己巳五十人為宗伯母改區基同年八六 御免
宝暦九年己卯正十五丸年 寿
于覚山院殿日升蒼道之居士

豊武 平井省左門

實 閑根勘十郎良永二男
實母金田庄左門 女
宝暦九年己卯四 訴自五百石為小普請組

豊

平井熊次郎

実新庄備中守直隆三男
実母蒙女房
安永五年卒六十四
于池香院殿蓮岸了英居士

藤原
平井　本國三河　紋三頭左巴

勝當
平井與三右ヱ門
生國三河
親建君奉仕居住于三州額田郡須淵邑
天文四年丁未十二月三三州井田役戦死年五十二

勝吉
平井與三右ヱ門
生於三州奉仕於
長親君
清康居居三州須淵邑
天文十八年己酉安祥役戦死年三十七

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

勝友　平井甚五郎　新三郎

生國三州

廣忠君孝仕賜三州須淵邑三十五貫七百文

元慶三年三月十二月味方原役賜御馬御具足而戰死年三十三

正勝　平井六藏

母倉橋太郎右衛門女

自若年孝仕

大神君開原役得石田三成臣吉川十五郎之首信達於三州市川而賜

二百石余後御屬于　頼宣君於遠州賜三百石

元和三年已後行于紀州

於紀州而死

妻曾根孫大夫長一女

正久　平井六藏　始甚五郎

母曾根孫大夫長一女

生國遠州

仕于　頼宣君賜三百石使番

某　平井甚五郎　勘左衛門

母人崎内記女

某　平井六藏

於紀州有故斷絶

次定 平井新二郎

生國遠州
太神居奉仕

次教 鳥居與三右衛門

實鳥居又右衛門童正男

勝長 平井佐次右衛門

於伏見而
太神居被召為大神番後新相番出奉為僧号權乃

正貞 鳥居小兵衛

為鳥居又右衛門童正舞奉侍子

重教 鳥居五郎兵衛 改平井氏

實鳥居小兵衛正貞二男
實母鳥居又右衛門童正女

正保四年丁亥十二廿五 不十七組賜百俵十口
寛文元年辛丑十一月 為同俱頭同年十二廿二加舍賜三百俵
天和二年壬戌四月二加百俵舍賜四百俵
貞享二年乙丑九十五為御廣敷番頭
元祿十四年辛巳四十四孔年 奉士右川丸山國泉寺
于蓮光院殿 行蒼以專居士

教重 平井與惣右衛門

母

延寶三年乙卯四月一始 御目見
同六年戊午三月九 部屋住宿入大御番植村書侍組賜二百俵
元祿五年辛未十二月九為新御番 村平右衛門奉仕
同六年癸酉十二月十八 御足永五十俵賜二百五十俵
同十四年辛巳七九 跡目四百俵 於勾間而秋元但馬守傳之
同年九廿六為御号失 諸奉行

寺保三年戊戌十一廿八仍病絆為中普請但於本国防産
同六年丁丑十廿五死年　葬蓮泉寺
号了智院殿高岳義通屋

女子　母同

佐々弥五右衛門　實次妻後再嫁
伊丹加兵衛晴之

次重　平井半右衛門
母

宝永六年己丑四六部屋住人大御番平相主膳正組炒二百俵
寺保六年丁丑十二月七日四百俵於菊間而水野和泉守傳之
寛保四年甲子正十九年　葬同泉寺
号春光院殿寛峰常知居士

次直　平井兵橋

實鳥居中大夫忠烈二男
實母早部丹波守博貞女
寺保十六年癸亥七二為養子
寛保二年壬戌十二三部屋住人大御番藤堂肥後守組炒二百俵
延享元年甲子四三跡目四百俵
宝暦十二年壬午七二九年　葬同泉寺
号蓮臺院殿春然得法屋

雅清　平井治三郎

實二九郎　昌宇居　小林惣兵衛正直養子

宝暦七年丁丑十二十四為養子
同十二年壬午十五歳日四百俵為十普請往事本年四郎十死
明和三年丙戌正廿一入大御番高木主水石組
大明八年戊申三廿九年　葬円寿寺
于浄信院殿慈周道眼屋

平井富次郎　五郎兵衛

克寛
寛士林勝之郎正陽二男
寛母
寺

大明八年戊申六四歳日四百俵為十普請往評内式部十死
寛政八年丙辰二二為大御番十二番
同九年丁巳壬七十七為御小納　同年十二十大布衣

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

藤原

平井

本國三河　敍左頭亡

平井與三左衛門勝吉
後亂

次重　平井五郎左衛門

大猷御徒賜七十俵五人扶持
正保二年乙酉爲御徒組頭同年十二廿八御足合賜百四十俵
明曆三年丁酉十一月一元奇高田感通寺
于華落院殿蓮成日普居士

次方　平井三五郎　五郎左衛門

母　羽州住　高橋平兵衛源親長女
明曆三年丁酉歸日百五十俵爲小普請住

御勘定 御材木奉行
宝永四年丁亥十二廿六加五千俵合賜二百俵後綷為小普請組
享保六年辛丑十二十二致仕

次 平井 百助 新八郎 延宝三年乙卯生
實 勅使河原庄右衛門男
宝永五年戊子二朔始 御目見
享保六年辛丑十二十二 家督二百俵於菊間御老中御列坐井上
河内守傳之為小普請組青木右衛門支配
同九年甲辰八十三為甲府勤番無律錢參守支配
延享四年丁卯三十六致仕年七十三

女子 大草治五右衛門 出由妻 宝永四年丁亥十一廿二死葬宗栢寺
于田成院妙教

次永 平井伊左衛門 仁右衛門
實
延享四年丁卯三十六 家督二百俵於菊間御老中御列坐酒井
雅樂頭傳之為甲府 坪内伊豆守支配
明和元年甲申十一十六隱居改愚丸

次懷 平井 新八郎 五郎左衛門
實
明和元年甲申十一十六 家督二百俵於菊間御老中御列坐松平屋支
傳之為甲府勤番松平河内守支配

国立国会図書館 タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子

花井惣九郎 貞成妻

次方

平井五左衛門

母同

正保三年丙戌生江戸
貞享三年丁丑十一月新規　櫻田御殿祐召出為御右筆賜百俵給為
御書物司百俵三口
宝永元年甲申十二五移平丸御　本丸御書物安行賜百五俵
寸保八年癸卯九十九年七十八葬高田観通寺
号心鏡院殿暮閑日證居士
妻大御番　杉下志丹宮　宜就女　元禄四年辛未八十九死
寸成就院日隠

女子

母同

鶴

寺尾五郎左衛門　重次妻　生五男二女
寸保四年癸亥正七九年七十葬観通寺
并信解院妙了日法大姉

次勝

平井清次郎　五左衛門

母永女房　寸保七年壬寅正廿四死　寺同寺
寸心性院陽廓妙然

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

陸奥

宝永六年上四六又住
天保五四年四

寸住八年壬卯十二廿七歳月百五十俵於菊間而御老中御列坐井上河内守傳之
為十普請組諏訪若狭守組
同十九年甲寅五十三人十十人相手又十郎組
明和七年庚寅十二廿九辭為十普請組
安永三七年甲午五廿八元年六十三葬観通寺
寺圓妙院殿法順日行居士
妻 桜田御書院番 佐野童助諸逢女

次昌 平井五左衛門

母佐野童助諸逢女 宝暦二年壬申十一廿九死葬同寺
寺随国院殿身性
明和元年甲申壬十二十六部屋住人西丸十十人表門六左衛門組
同九年辰八廿五為同組頭
安永三七年甲午九七歳月百五十俵
天明八年戊申十十七元年 葬観通寺

宣賢 相下虎之助 伊左衛門
母同

寸住廿年乙卯十二十五生居
宣延二年己巳正十八以父後弟之後
為相下主水宣清養子

久延 平井市蔵 五左衛門

實武藤市之進玄元二男
實女

天明八年戊申十二廿七歳月百五十俵於菊間而相手伊豆守傳之為書
溝口相模守支配時為曾我周防守支配取扱
文化七年庚午十一廿八為西丸十十人中川惣左衛門組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寛保元年千百四十四為　崇平君御傳加扶二百石合賜五百石
延享三年丙寅十月三御役御　召放御加増御召之　賜三百俵
寛延三年庚午十二月十六日卯年五十七葬高田願満本川口寺
于正星院殿前北門源龍大居士
妻松平宮房門庶　女　子保五年庚子二丑後徂

正則　平井大學　妙成記　俾正

寛大久保源次郎　迷高二男
寛母
子保四年甲寅生
寛延三年庚午　踏日三百俵為十善請徂居川五右門寺祀
宝暦六年丙子十二月大御書院番水野山城守徂
同十年庚辰　正井大進御番出役
安永　年　伝祠絳為十善請徂宮城人三郎寺祀時
安永十年辛丑三月七日卯年六十三葬同寺
于正覚院殿則成日敬居士

正誠　平井織部　紀一郎
寛宮崎三郎房門　二男
天明元年辛丑六月踏日三百俵於菊間而御老中御列坐鳥居丹後守
傳々為十善請徂宮城人三郎寺祀

女子　母
女子　母同

正丸御小姓徂
兼村左京　正明　妻

平井能藏

母

平田

平田伊右門

某

生国武州

櫻田御殿御留守居 賜五百俵

宝永元年甲申十二月為西丸御廣敷番頭

同四年丁亥七月二日

若君御七夜御祝儀賜時服二同年八月二為西丸焼間番頭

同年十二月三布衣

同五年戊子七月八於一番町新道賜居他

同六年己丑十月九日為寄合

同七年庚寅正月六為御留守居番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正德四年甲午三五 信光女 鎌島之妻 造流

某 平田彦四郎

実大郎 神谷長五郎等

宝永六年己丑三月六日 養子同年四六 自部屋住 本郎 書院番勝

三百俵属 回歸 傳中之組

正德四年甲午三五 信文之嫡 造島

千子 青木與十郎 妻

藤原 平田 本国近江 紋 茗荷 三鉛杏 左三巴

尚元 平田半十郎

泉州住人 仕豊臣秀頼 籠大坂城 属其四左門 作之平

夏 再乱 義死

尚知 平田半十郎

元和元年乙卯丈死 亡時年四 随于泉州 左長出口戸

明暦元年乙未五九死 年四十四

于道智

章春 平田 [illegible]
住江戸 派人

達知 平田 長左衛門
住江戸 派人

尚信 平田 [illegible] 長左衛門
母 [illegible] 人 德田八左衛門女
妻 江戸派人 高貫半兵衛女

延宝五年丁巳生 江戸
文祿五年壬申三十五以有藝新規 櫻田御殿被召出為御能
役者賜金二枚月俸
宝永元年甲申十二五移于[illegible]
同二年乙酉三廿八賜金二枚五人扶持
同三年丙戌九十二被召出為土井間御番賜月俸十人扶持
御番料金毎五両同廿一日改賜百俵料五十俵

同七年庚寅正十八加五十俵合賜百五十俵
正德六年丙申五十六一同 御兄為土井請組大島肥前守組
享保四年己亥四廿四死年四十三葬目黒増寺下邸内善長寺
弓

尚賢 平田半之丞
母 高貫半兵衛女
宝永三年丙戌生於江戸
享保四年己亥七十一歸目百五十俵於前間而御老中御列坐戸田
山城守傳之為土普請組大島肥前守組
同十六年辛亥七十一為表御右筆旨相手伊豆守傳之
宝暦五年乙亥九十一町屋敷沽券一件於評定所御尋人賜堂敷
神尾備前守傳之同年十九再御詮議被領于親類同十一年九
町屋敷沽券調方去年被仰出御後達令相違可差出之旨

土屋越前守方處不念有之故土著請人為曾根去廿番五十歳
同六年丙子三丁二 仲敬兄本多伯耆守傳旨
同十二年辛丑三年始登城
安永八年己亥六廿一死年七十五歳同寺
号

某
義通 先彦之進 明和元年甲申七五死歳四福寺
為仲特尚先善次郎保胤養子

某 平田利述右 明和五年戊子八八死
母家女
尚義 平田金次 半之丞
母同

明和五年戊子九九為惣領自松平右近將監傳之
安永八年己亥九六踏月百五十俵於菊間而松平右京大夫傳之
為土著請但長谷川利十郎十能
天明元年辛丑十一月二十六西丸小十人班敷馬往
同八年戊申九廿四年四十二歳同寺
号

渡邊多忠 為渡邊勝之丞
母同 養子

中子 母同 榊原兵部 壽 安永六年丁酉五廿四死

勝豊 先 杉浦辰之郎 平田郎 求馬 為杉浦平戸門勝満
母同 聟養子

中子　母小房

攝邊市五郎　政好妻

平田餘十郎　長左衛門

尚鈞　母同

天明八年戊申十二二歸目百五十俵於菊之間而御老中御列坐相
伊豆守行之為十善請但金田近江守子配
寛政八年丙辰十二十六為表御右筆
同九年丁巳正十六西丸附
同十二年庚申十二二以五箇年皆勤賜御扈衣金一枚皆水野
出羽守傳之
文化二年乙丑十二十六賞西丸御右筆所料紙筆墨低懸高
骨折之事賜銀三枚

同三年丙寅九朔仍病辭十笠原近江守傳　吉為十善請但下田
大学子子配
同七年庚午六廿八死年　葬同寺
号

尚明　母

平田重三郎

文化七年庚午九十二歸目百五十俵於菊間而御土井大炊頭侍
為十善請但初年小十郎子配

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

平田　本國　紋丸四目　鉾仙

勝基　平田清太夫

勝吉　平田三郎左門

文祿十三年庚辰二月八新規被　召出為中廊下番賜百五十俵
寶永六年七月二十五日　仙兒為小普請組
寸保十二年丁卯十一月　无

勝房　平田新次郎

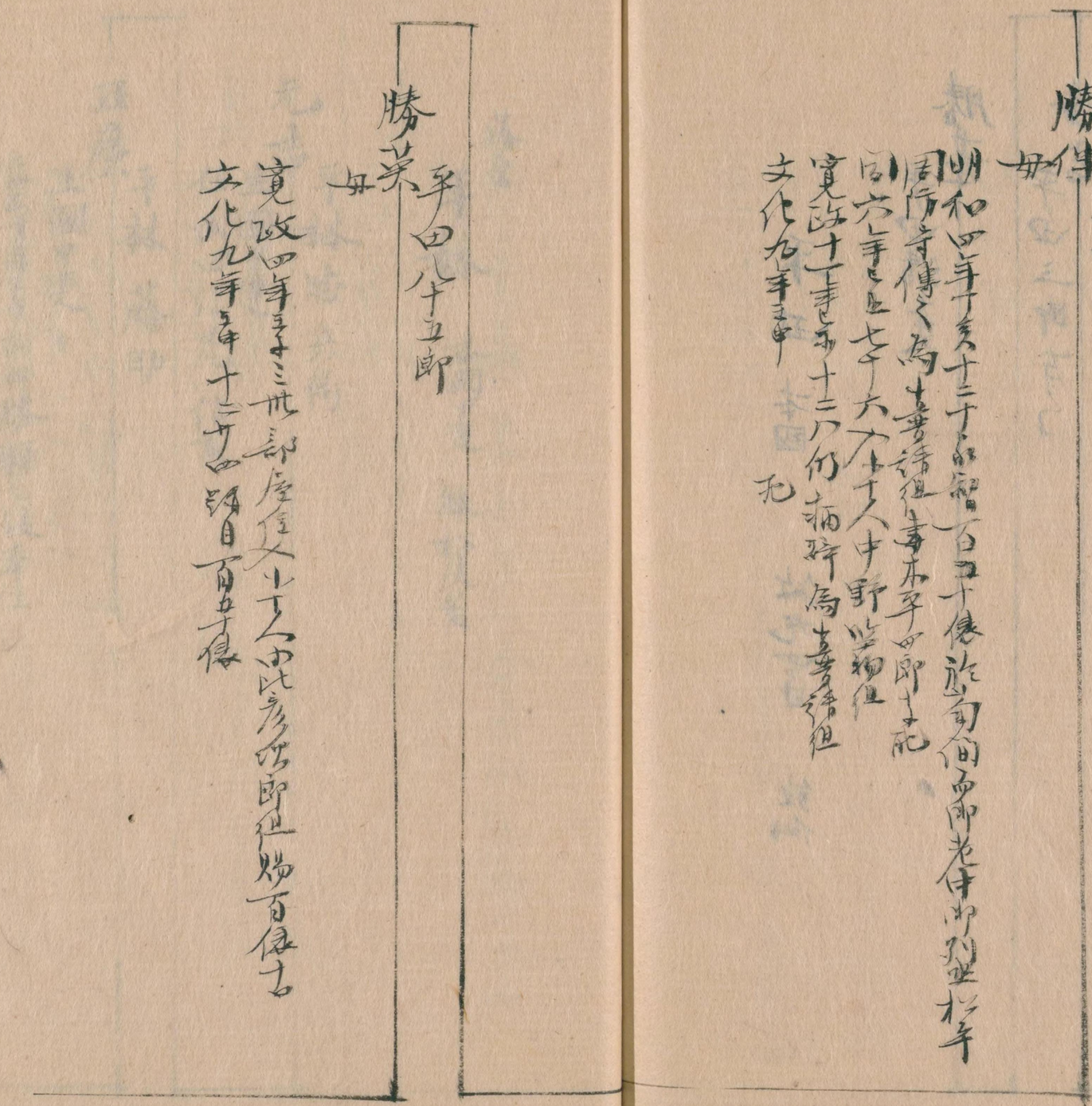
文化十二年丁未十二月七日 百五十俵 於旬間而御老中御列坐松平
伊賀守傳之為上意待徂 溝口掛律守徂
明和四年丁亥十二月致仕
天明三年癸卯八四死

勝 平田万二郎
伴 母

明和四年丁亥十二月 於御目百五十俵 於旬間而御老中御列坐松平
周防守傳之為上意待徂 毒本平四郎十死
同六年己丑七月六日 大小十人中野監物徂
寛政十一年己未十二月 病辞為上意待徂
文化九年壬申 死

勝 平田八十五郎
英 母

寛政四年壬子三月 部屋住人小十人中比彦次郎徂 賜百俵十石
文化九年壬申十二月四日 百五十俵



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

藤原

平林　本國甲斐　紋松皮菱

元吉　平林志兵衛

生國甲斐

仕武田信虎　信玄

正廣　平林　藤助

生國甲斐

天正十年壬午武田勝頼亡後寿任

大神君同十三年乙酉信州真田安房守攻伐之時鎗下高名能創

中是賜一匹人之失能賞其功

慶七六年丁丑六月初九年七十三

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正次　平林藤三郎

生國甲斐

天正十六年戊子生於甲州

慶長六年辛丑踰自

同十六年辛亥十二月死年廿六

号自光史雪祥達門

正久　鎌田孫左衛門

母鎌田氏養子

正好　平林次郎左衛門

母

台德公大御番賜二百俵居於年出雲守組賜　御遺物金五十兩

同十年壬寅並加二百石九賜四百石往為御廣敷番頭

寛文五年乙巳六十九位病辭為小普請組

同六年丙午二月死寿四十石全勝寺

号大雲土時慶居士

某　平林藤三郎

母

正保二年乙酉九四死寿全勝寺

号本覚了源祥達門

某　平林孫左衛門

母同

断絶

部屋住為御書院番賜三百俵三枝隠岐守組時

寛文六年丙午五十八喧嘩而致寿全勝寺

号法宗保全祥達門

知行四百石被召上々

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

天正六年戊寅生駿河
慶長七年壬寅部屋住被召出為
大神君御小姓其後少有背　御前以為中人組
元和二年丙辰出于江戸為
台德公御腰物番賜二百五十石
同九年壬申賜　御遺物金小判五十両
同十年癸酉三十七死年五十六号釋了頓
号全勝院殿義忠願了屋

定次　平賀小左衛門　始小三郎
實　所目付　飯田四郎左衛門重次二男
實母
慶長十七年壬子生駿府

寛永五年戊辰自部屋住為大御番植村出羽守組
同十年癸酉賜二百石同年所目賜二百五十石自領上納
正保二年乙酉二十八死年三十四

清秀　平賀七之丞
母
慶安二年己丑十二月六日大御番上野防波守組
明暦元年乙未十二十九年　西統地門跡寺中
号大圓院殿虚蓋了室屋
慶安元年戊申小左衛門養子七之丞御番入未考
自忠次忠勝清秀凡三世之碑天明六年丙午十一月七日平賀甫水清傳
同武部大輔忠愛造立于雲居山宇多寺此時法諱贈之改

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

清面 平賀八之丞 三五郎
母

承應三年甲午二廿七ノ日杉浦内藏允組大久御番松平外記組
寛文八年戊申五七為拂方御納戸
延宝三年乙卯六十一為同組頭加百俵
天和二年壬戌四廿二加替俵合賜四百俵
貞享十五年戊辰五十三為御廣廢番頭後 御免為上普請
元禄十年丁丑七六致仕

妻 都筑法印右門 女

平賀甚左門
宗秀

實 駿府武具奉行 大原源五兵衛景行二男
實母 本多内記 上月源六兵衛女

妻山本金左門 正成女 元禄十四年辛巳九廿三死妻駿辺西善寺
号普光院釋間照禅尼

再妻 松平三殿頭 山名瀬左近右門勝就女 母中宝氏女 天和元年辛酉十二八生
先生臣
元文五年庚申六卅死年六十葬宗参寺
号俊光院殿本岳養源大師

平賀三郎左門
景
天和三年癸亥二月九廿五死位
又書十

寛文九年己酉七月生於駿府
元禄十年丁丑七六家督四百俵於菊間而御老中御列坐土屋相模守
傳之為上普請組大久保丢番頭組
同十一年戊寅八九為桐間御番
同十二年己卯三廿三為御近習番同年六廿八為御小納戸
同十五年壬午六十五為桐間御番
宝永六年己丑二廿一為大御番池田帯力組
享保十一年丙午八廿二為御細工所頭
同十七年壬子 為正丸御裏御門番頭同年十二十八布衣
延享三年丙寅正廿八為御先手御鉄炮頭
寛延二年庚午十朔死年八十二葬牛込雲居山宗参寺
号泰相院殿観應宗栄居士

二

義郷 平賀八之丞 武兵衛

實 駿府御代松岡勘助菅原士嘉人曾二男

實母 閑氏女

妻 飯高加兵衛亂從女 宝暦四年甲戌十二十七死葬宗参寺

号 禎照院殿真如妙元大姉

元禄十七年甲申正十五生於駿府

享保三年戊戌出于江戸為養子

同十年 部屋住入大御番板倉下野守組賜二百俵

同十七年壬子十二十一 信為父布衣御役 替于西丸御小性組

寛延三年庚午十二廿 號自四百俵

宝暦六年丙子 仍病繹為小普請組

明和九年壬辰七八死年六十九 葬于廻宗参寺

号

一

皇慶 平賀勘兵衛 正徳五年乙未九朔死安同寺号 徹要淨心居士

清博 平賀三五郎 隠居名甫水

母 飯高加兵衛亂從女

妻 新見傳右衛門正平女豊

元文二年己巳九廿生江戸

宝暦六年丙子十二十九 婚姻

明和元年甲申十一廿死年廿八 葬宗参寺

号 玉光院殿清凛妙禎大姉

享保 年 生於江戸駿臺

宝暦七年丁丑十二五 部屋住被召出為西丸

博信公御小納戸 新規賜三百俵 同十八日布衣同十年 庚辰西丸附

同十一年辛巳八四一 同為寄合

同十二年壬午十一八 為御小納戸

安永元年壬辰十 踊目四百俵

同六年丁酉十十七 仍病繹為寄合

同九年庚子八廿 致仕賜年俸三百俵 名代安部平吉登城

後剃髪号甫水

国立国会図書館 タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

供売 平賀新五郎
母同

女子
母同

荒木甲斐守 高主妻 始松 改多喜
寺保十六年辛亥十二廿八生 法戸
寛延元年戊辰十二七 高主死去故
宝暦四年甲戌六月出于 大奥奉仕改名
多喜
同十一年辛巳九廿六死年三十一葬同寺
号本光院殿真法自性大姉

女子
母同

蜂屋忠兵衛 正善妻

女子
母同 幾

元文三年戊午生 江戸
延享四年丁卯二廿五年十 安国寺于玉峰院 黙羽卒 英香童女

清峰 平賀八三郎
母同

元文五年庚申十二十六生於江戸
延享四年丁卯四廿九死年八 葬宗参寺
号幻境院壽好良栄禅童子

始清行 平賀鉄之助 丹宮 式部大輔 信濃守
貞忠女
母新見傳右衛門正平女
妻 永井筑前守 直簾女
生於江戸 駿河臺
宝暦八年戊寅
安永二年壬巳五七 部屋住 新規被 召出為御小納戸 賜三百俵
同年十二十六布衣
同四年乙未三十為御小性
同五年丙申十二十六 叙諸大夫 改式部大輔

国立国会図書館 タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

同九年庚子八十家督四百俵御老中御列坐相平右京大夫傳之
天明六年丙午壬十七加令迫御性可勤之旨也
同　年　為御徒頭
同八年戊申九十為御目付
寛政四年壬子三朔為長崎奉行

女子　母同　　夭
女子　母同　　安永四年乙未十廿六夭　幸國寺
子自明童女

平賀鉄之助　母宮
母永井筑前守直廉女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

三枝孫郎

母同

女子　道

母同

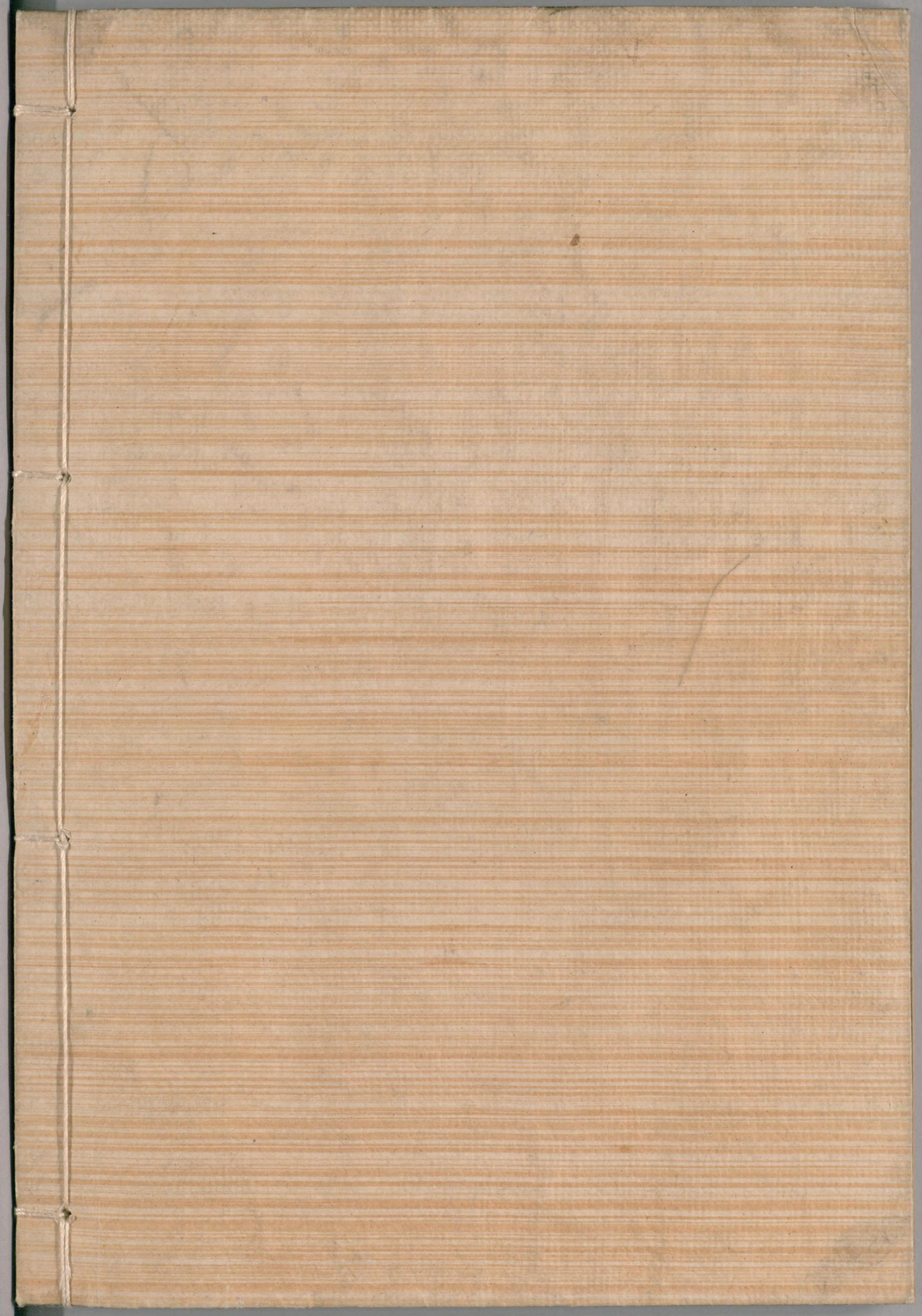
天明八年戊申生十七生於駿臺甲賀坊

寛政元年七百五十九夭年二葬同寺

号智運良意童女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用